

1

JANUARY

- 3 [火]—4 [水] 豊橋市制施行110周年記念 豊橋ふるさと大使凱旋公演
『新・幕末純情伝』●PLAT主ホール
- 7 [土] 第15回とよはしまちなかスロータウン映画祭 オープニングイベント
『樹木希林 新春シネマ&トーク』●PLAT主ホール
- 9 [月] みんなで楽しむおしぼいコンサート“おうたの森”～「おやすみなさい」のそのまえに～
●PLATアートスペース
- 11 [水] プラットワンコインコンサート 新津くらら『ソナタで時空をこえて』
●PLATアートスペース
- 14 [土] 第4回 桜丘高等学校・ダンス部自主公演『Jump Around』●PLAT主ホール
- 15 [日] クリエイトオブシムズ創立30周年特別企画
クリエイティブアカデミーダンス発表会●PLAT主ホール
- 15 [日] 第三回 新春天狗連名人会?●PLATアートスペース
- 17 [火]—19 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第258回例会トム・プロジェクト『萩咲く頃に』
●PLAT主ホール
- 20 [金] kuniko kato arts project 『ARMENIAN SONGS』●PLAT主ホール
- 21 [土]—22 [日] 第15回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映
●PLATアートスペース
- 22 [日] 豊橋市民と三遠南信地区大男声合唱の集い
ふんけんクラブ たなぼたコンサート●PLAT主ホール
- 28 [土] 『歌い、継ぐ』～永六輔さん追悼コンサート～●PLAT主ホール
- 28 [土]—29 [日] 第15回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映
●PLATアートスペース

2

FEBRUARY

- 4 [土]—5 [日] 平成28年度 東三河高等学校演劇合同発表会●PLAT主ホール
- 5 [日] 音楽で広がる本の世界 村上春樹の作品に寄せて●PLATアートスペース
- 11 [土]—12 [日] 第15回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映
●PLATアートスペース
- 11 [土]—12 [日] 平成28年度 東三河高等学校演劇合同発表会●PLAT主ホール
- 15 [水] プラットワンコインコンサート Trio Katze『トリオで楽しむ音楽の対話』
●PLATアートスペース
- 17 [金] 骨髄バンクを支援する集い～能と打楽器のコラボ「恋歌共響」チャリティ公演～
●PLATアートスペース
- 18 [土] 二兎社公演41『ザ・空気』●PLAT主ホール
- 18 [土]—19 [日] 第15回とよはしまちなかスロータウン映画祭 一般上映
●PLATアートスペース
- 19 [日] ブラスジャンボリー in豊橋 2017 with オリエンタ楽器●PLAT主ホール
- 23 [木] ダンスレクチャー ビービング・トムとダンスについて語る●PLATアートスペース

表紙/「ザ・空気」若村麻由美
撮影:KEI OGATA
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
平成28年12月発行 23号[隔月発行]



TOYOHASHI ARTS THEATRE
PLAT

PLAT
CALENDAR

公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2017年1月～2月
vol. 23



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

PLAT
CALENDAR



CONTENTS

表紙「ザ・空気」若村麻由美

2

INTERVIEW:1

二兎社公演41「ザ・空気」
キャスト役に挑む、若村麻由美

4

TOPICS

「歌い、継ぐ」
～永六輔さん追悼コンサート～

6

INTERVIEW:2

「はしっ子」
糸井幸之介のちょっと妙なミュージカル

8

INTERVIEW:3

マームとジブシー
「てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。
そのなかに、つまっている、いくつもの。
ことになった、世界。および、ひかりについて。」
藤田貴大の世界

11

FOYER

プラットが学校へー「楽しむ」を伝えるー

12

INFORMATION

PLAT主催公演情報

14

ESSAY

平田満のちよこつと エッセイ
「AI-ロボット」

15

SUPPORT

TICKET CENTER

16

PLATCALENDAR

ひたむきで本物のプロフェッショナル
永井愛さんの作品に参加させてもらえるのは幸せなことです。
キャスター役に挑む、若村麻由美
聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー

中島——映画にテレビにとど活躍ですが、最近、舞台での出演が増えたと思うのですが。
若村——舞台がやりたくて演劇を志しましたが、朝ドラのデビューをきっかけに、映像の仕事が多い中で、こうしてコンスタントに舞台に出演させてもらえるのは嬉しいことです。

高校3年生の12月に観た、無名塾の『ハロルドとモード』が衝撃で、しばし立ち上がれませんでした。「こういう世界があったのに、私は17年間知らずに生きて

きたんだ。私も劇空間をつくる仕事をしたい」と思い、その時のプログラムに無名塾の公募案内があったので、まずは問い合わせしてみました。すると「もう締め切っているので、速達で履歴書を送ってください」と言われ、年明けて1月にはもうオーディションでした。

中島——高校時代はどのような学生さんだったのですか？

若村——「あの子いつも1人でいるよ」と友達に思っていたくらい、特に高校時代はものすごく閉ざしていまし

た。誰にも話しかけられないように、常に本を読んでいるか、もしくは寝ているか、寝ていなくても寝ているふりをしていました。声をかけられればこたえはしますが、自分からは絶対話しかけなかった。そんなことをしていたら初めての人に挨拶もできなくなってしまいました。すっかり赤面症です。

無名塾合格後も、NHK連続テレビ小説のヒロインオーディションに受かった時も、まだ克服できていなかったのです。決まった時の記者発表では、カメラと人がいつ

いますが、最初にお話を伺った時に、「以前からお願いしたかった。今回は報道がテーマで、キャスター役です。」と言われ、「私がキャスター?」と、驚きました。

永井さんの作品はホントに面白いし、やはり人間が深く描かれています。『パパのデモクラシー』『時の物置』『萩家の三姉妹』からずっと拝見していて、この素晴らしい永井作品にいつか関われたらなと願っていました。

また、永井作品に多く出演された、尊敬する無名塾の先輩の大西多摩恵さんが、「素晴らしい演出家。でも稽古は厳しいわよー」とおっしゃっていたので、「ああやっぱり厳しくない面白本は書けないし、役者をイキイキと動かすことはできないんだ」と、1000本ノックを受ける覚悟でお引き受けしようとお会いしました。ところが、色白の面立ちが印象的な永井さんは、こちらが恐縮するほど腰を低くし、優しい鈴のような声で、「お忙しい方なので出て頂けるなんて思っていませんでした。」と、ご挨拶されたのが衝撃でした。「こ、こ、こういう厳しさか……!」と(笑)。

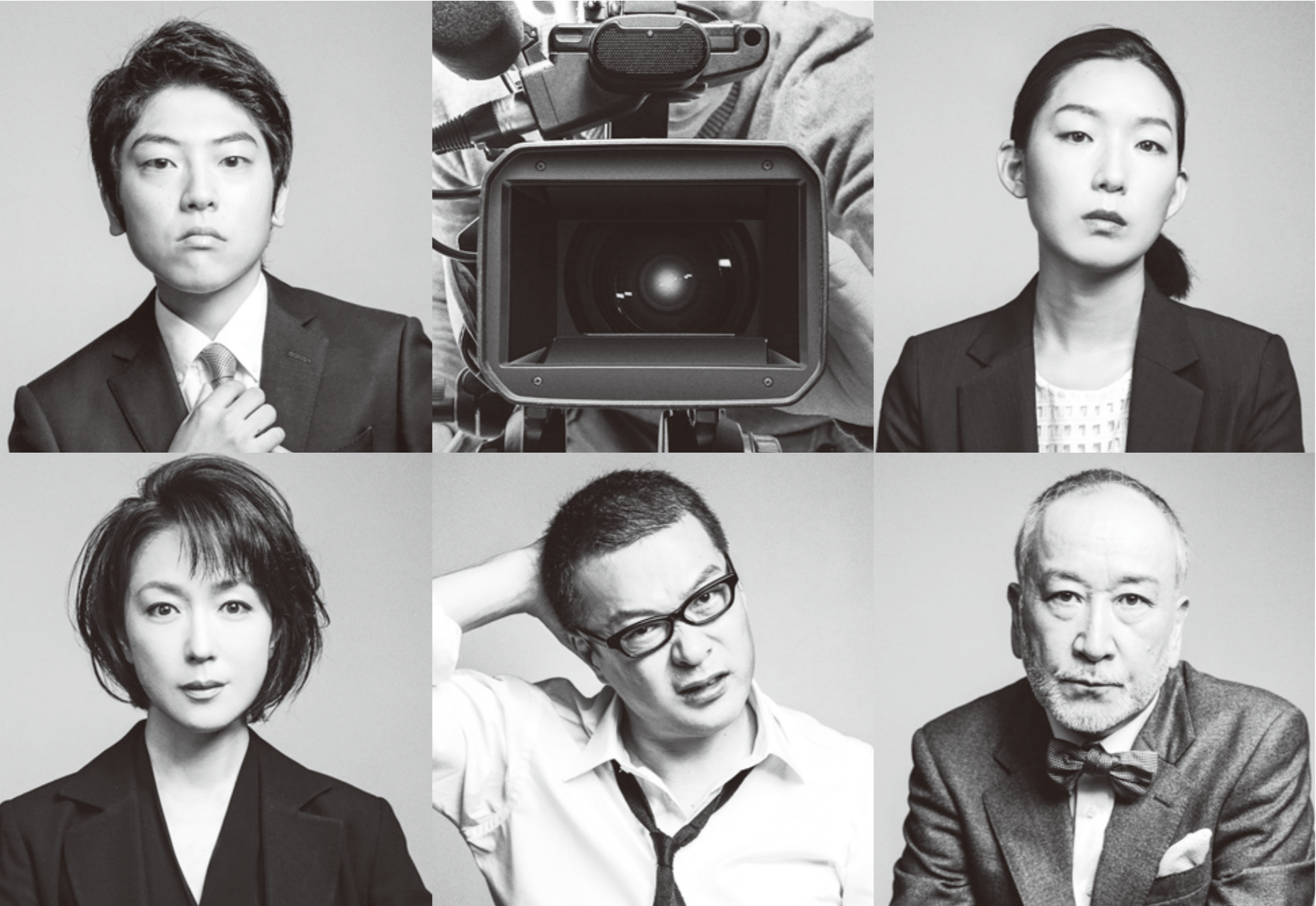
報道の自己規制をテーマにした『ザ・空気』への思いを伺うにつれ、演劇に対して真摯に取り組まれる、謙虚でひたむきなプロフェッショナル魂が伝わってきました。私が演じる人気報道番組のキャスター来宮楠子(きのみやくすこ)も、こういう女性かもしれないと空想しています。

中島——永井さんは、物腰は柔らかいのですが、市民参加のリーディングでも厳しいですし、初日の幕が開いても、結構ダメ出しなさいますよ。

若村——私が育った無名塾もそうでした。無名塾の主宰・仲代達矢さんの奥さまの宮崎恭子さんは、演出家・隆巳。毎ステージのダメ出しがあり、最後の最後まで、千秋楽の後にもダメ出しされます。でもそれは、これから役者としてやっていく次の課題として、話してくださるんです。私はそんな無名塾で育ったので、蜷川幸雄さん演出の芝居に出た時は、戸惑いました。稽古の時はもちろん、初日まで一度もダメ出しがなかったのです。あの時の怖さといったらもう、いつか灰皿が飛んできた方が、気が楽でした(笑)。「大丈夫。変だったら言われるんだから」と、共演の皆さんが慰めてくれたのですが、「いやーそうじゃない。きつと気に入らないからおっしゃらないんだ」と、言われない怖さを知りました。でも、終わってすぐに次のオファーを頂いたので、そういうわけでもなかったのかもしれない。

私はものすごく自信がないタイプなので、永井さんの演出でダメ出しを頂くのを楽しみにしています。今は雲をつかむ状態ですが、永井さんがどんな戯曲を書きあげられるのか、魂をこめて立ち向かいたいと思います。

中島——その雲をつかみつつ、雲の下に潜るのか上を行くのが楽しみです。ありがとうございました。



2017年2月18日[土]13:00開演
作・演出＝永井愛
出演＝田中哲司、若村麻由美、江口のりこ、大窪人衛、木場勝己
会場＝PLAT主ホール

人気報道番組の放送開始まであと数時間
ある“懸念”をきっかけに現場は対応に追われ始める、決定権を握るのは……空気？

二兎社公演41「ザ・空気」

ばいで、生まれて初めての経験に大変緊張し、ゆでタコみたいになりました。翌日の新聞の見出しは、『『はっさい先生』のヒロイン決まる!湯上がりお姉さん』と、一見「湯上がりお姉さん」というドラマタイトルのような感じでした。

中島——今回、作・演出の永井愛さんが若村さんに決められた思いは何だったのでしょうか。

若村——キャスティングには色々と思図があるかと思

若村麻由美[わかむら・まゆみ] / 無名塾出身。87年NHK連続テレビ小説「はっさい先生」に主演。エランドール新人賞受賞後、日本アカデミー賞優秀助演女優賞、紀伊國屋演劇賞個人賞ほか数々受賞。ジャンルを越え幅広く活躍。現在はドラマ「科捜研の女」TS ONE「若村麻由美のMUSIC FLOWER」放送中。主な舞台「リア王」「マクベス」「チレウス・ラカン」「カリギュラ」「鈍切丸」「頭痛肩こり樋口一葉」ライフワーク「原典・平家物語」。17年の公演は「ザ・空気」「子午線の祀り」若村麻由美の劇世「ワルツ〜カミーユ・クロデルに捧ぐ〜」に出演予定。

日本の歌謡曲やJ-POPの 原点となった歌を作った永六輔

佐藤剛

ラジオやテレビといったメディアの発展、レコードやテープの普及などによって、20世紀は音楽が誰にも身近な存在になりました。そんな時代のバイオニアだったのが永六輔さんです。永さんはテレビラジオの放送作家として登場した後も、さまざまな分野で活躍して一流の実績を残しています。

永さんはまた、ふつうの話し言葉で歌詞を書いて最初に成功した人でもあります。当時の歌詞は多かれ少なかれ文語的な表現でしたが、永さんは日常の言葉づかいを生かしながら、例えば「橋」と「箸」のイントネーションの違いなどにも気を遣って、日本語を大切にしながら歌を作ったのです。

早稲田大学の先輩であるジャズ・ピアニストの中村八大さんに頼まれて、夜を徹して初めて歌作りをした中から、第1回日本レコード大賞に輝いた「黒い花びら」と、数多くのシンガーに歌い継がれるようになる「黄昏のビギン」が生まれています。

その後は作曲家になった八大さんと六・八コンビで「夢であいましょう」「上を向いて歩こう」「こんにちは赤ちゃん」「遠くへ行きたい」などを世に出しました。また、いずみたくさんとコンビでも、「見上げてごらん夜の星を」「女ひとり」「いい湯だな」などを作詞して、今も愛されている数多くのスタンダード・ナンバーを後世に残してくれました。

これらの歌が次世代の音楽家たちに受け継がれたことから、日本の歌謡曲やJ-POPが発展してきたのです。

育之介

俳優。永六輔の次女である元フジテレビアナウンサー永麻理の長男として、1993年10月31日に東京に生まれる。幼少期より芸能を志し、地道な芝居修行を経て活動を開始。テレビドラマ版「永遠の0」などに出演した。祖父である永六輔とは、TBSラジオ「誰かどこかで」にて共演し、その際祖父譲りの趣味である旅、バックパッカーで東南アジアの国々を巡りボランティア活動をしたことについて話しスタジオを大いに盛り上げた。また晩年には、数十年ぶりの出演となった読売テレビ「遠くへ行きたい」での車椅子を押す姿が話題を呼んだ。本公演で祖父の遺した作品と深くかかわること、今後の俳優活動、ひいては執筆などの創作活動にまで、その血筋を存分に受け継いだマルチな活躍が期待される。



スペシャルゲスト

二階堂和美

広島在住のシンガーソングライター。大所帯から小編成まで、どんなスタイルでもブレない歌のクオリティが、ミュージシャンから子ども、巷のおばちゃんまで、幅広い層から愛されている。現在までに単独作として12作品を発表。中でも全曲を作詞作曲した2011年発表の「にじみ」がきっかけとなりスタジオジブリ映画「かくや姫の物語」の主題歌（「いのちの記憶」作詞作曲・歌唱）へ起用されるなど、広く知られるところとなるが、当該曲のイメージだけでは収まりきらない音楽のふり幅、ライブでの圧倒的なパワーは必見。浄土真宗本願寺派の僧侶でもある。



大友良英

1959年生まれ。映画やテレビの音楽を山のように作りつつ、ノイズや即興の現場がホームの音楽家。ギタリスト、ターンテーブル奏者。活動は日本のみならず欧米、アジアと多方面。美術と音楽の中間領域のような展示作品や、一般参加のプロジェクトやプロデュースワークも多数。震災後は故郷の福島でも活動。その活動で2012年には芸術選奨文部科学大臣賞芸術振興部門を受賞。2013年「あまちゃん」の音楽でレコード大賞作曲賞を受賞。2014年国際交流基金とともにアンサンブル・アジアを立ち上げ音楽を通じたアジアのネットワーク作りにも奔走中。札幌国際芸術祭2017の芸術監督も務める。http://otomoyoshihide.com



DUKE ACES

デューク・エイセス(選りすぐられた公爵達)は、1955年8月1日に、アメリカンポップス・黒人霊歌を歌うことからスタートしたグループ。1967年から5年間にわたっては、永六輔氏、いずみたく氏と共に全国をまわり、旅人の目にとらえた各地のうたを作った「にはんのうたシリーズ」を完成させた。発表後は、数々の受賞に輝き、後の御当地ソングブームに火をつけた。レパートリーは日本の歌は勿論のこと、ジャズ・スタンダードナンバー・映画音楽・シャンソンとしてカンツォーネまで広げ、現在1600曲にもなっている。また、クラシックの組曲に日本語の歌詞をつけたり、スキヤットで器楽曲を歌ったり、新しいことに挑戦する実験精神と、音楽的完成度をつねに求めている。

INSPI

アカベラヴォーカルグループ。1998年大阪大学内アカベラサークル「inspiritual voices」立ち上げ。大阪市内を中心にストリートライブを行う。2001年12月フジテレビ「ハモネブ」出演がきっかけとなりメジャーデビュー。国内はもとより海外公演(インドネシア、タイ、モンゴル、カザフスタン、ウズベキスタン、メキシコ、ブラジル)も積極的に行う。2005年2月より日立CMソング「この木なんの木」を担当。2015年より自身のYouTubeチャンネルでスタートさせた「本気でやってみたシリーズ」がヒット。チャンネル登録者数は18,000人を突破し、アカベラファンはもとより、一般層まで支持を広げている。また、NHK「みんなのうた」に2015年12月より登場。



2017年1月28日 [土]15:00 開演
出演＝デューク・エイセス、大友良英スペシャルバンド、INSPI、育之介
スペシャルゲスト＝二階堂和美
会場＝PLAT 主ホール

歌い、継ぐ
～永六輔さん追悼コンサート～





糸井幸之介【い・い・ゆきのすけ】／劇作家・演出家・音楽家。1977年東京生まれ。2004年に女優の深井順子により旗揚げされたFUKAIPRODUCE羽衣の全作品で作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の7割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合した独自の作風を“妙-ジカル”と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード“飛翔”2008年度舞台芸術部門受賞。第14回公演『耳のトンネル』にてCoRich舞台芸術まつり! 2012春グランプリ受賞。2014年より多摩美術大学にて非常勤講師を務める。

深井順子【ふかい・じゅんこ】／俳優・FUKAIPRODUCE羽衣主宰。1977年東京生まれ。96年から99年まで劇団唐組に在籍。04年に、糸井幸之介の生み出す唯一無二の“妙-ジカル”を上演するための団体、FUKAIPRODUCE羽衣を設立。妖艶かつ混沌とした詩的作品世界、韻を踏んだ歌詩と耳に残るメロディで高い評価を得るオリジナル楽曲、圧倒的熱量を持って放射される演者のパフォーマンスが特徴。設立以降、全公演に出演、及びプロデュースを行う。2008年に世田谷区芸術アワード“飛翔”を受賞。2012年『耳のトンネル』にてCoRich舞台芸術まつり!2012春グランプリを受賞。同年、『浴槽船』にて、クォータースターコンテスト(演劇ふっく・エントレ共同主催の演劇動画コンテスト)グランプリ受賞。演劇公演のみならず09年からLIVE活動を開始。また近年は、中高生向けのワークショップの講師や、野田地図『エッグ』『MIWA』に出演するなど、活動の範囲を広げている。2014年より多摩美術大学にて非常勤講師を務める

単純に舞台に立って楽しみたいという方もいらっしゃる。もちろん、それでいいと思うのですが、せっかくプロが関わるので、演劇は面白いが、怖くもあるのだよと教えてあげたいなと思っていたのですが、深井さんが出てくださると聞いて、「あ、こりゃすごい。演劇の怖さを深井さんから伝えられる」と。

— 糸井さんへのすてい信頼感を感じます。

深井さんの糸井さん評をお願いできますか。

深井——高校からの同級生で、「この人面白いな」と思ってから、ずっと一緒に演り続けて、今まで飽きたことがない。野田秀樹さんにも深井の作品への片思い感はずっと押しこめていた方がいいよと言われていましたし、いつも「こういう歌詞があったんだ」「ああみたいな、喜びが走る曲や詩を書いてくれて、舞台で自分が自分であってよかったという喜びがいつも襲うのです。だから、劇団を続けてこれたのだと思います。

それは彼しか持っていないシンプルな言葉の強さによるのですが、豊橋の人達にも一緒に演れば、きっと伝わると思います。

— 最後に、出演者やスタッフ、豊橋の皆さんに抱負などをお願いいたします。

糸井——いや、ホントにもう、楽しみなことの上ないです。スタッフも心配はないですし、出演者も面白そうな方ばかりなので。何よりも楽しみな気持ちのまま、作り続け、最終的にはお客さんに楽しんでもらえるように、やっていきたいと思っています。

っています。

— 豊橋の競輪場に行かれたようですが、

その他に豊橋の印象というのがありますか

糸井——初めて競輪場に行って、ざっくりとした、温泉のようなもわんとした、だらしなくてもいい我関せずのムードで、居心地がいいかも、思ったのです。自転車のレースなども取り入れればシーンが盛り上がりそうです。

一番の印象は、手筒花火です。こじつけですが何となく中央にはなれないが、なんか「俺達なんだ!」という思いを感じ、商店街の皆さんなのに、パッと見「花火職人」に見える。それはやはり印象深かったですね。

海にも行きました。何にもなく、ひたすら海岸がずっと。しかも、ギリギリまで切り立っていて、一気に海!だから、近づくまで海に気づかない。海も山もあるのですが、海の街という感じでも、山の街という感じでもない。でも両方あって、なんかどっち付かずの印象もある。

— オーディションの感想、あるいは、オーディションでの市民劇について。

糸井——あの大きなホールで1年に1回出ている俳優さんという、そんなにいないですが、もうすでに2回演って、2年連続で出ている方もいる。演劇は観るのはもちろん楽しいのですが、演るのが何より楽しいという面があります。その楽しさを知ると観るのもまた楽しくなっていきます。オーディションを受ける方に、何年もというふうに過ごしてきたなと感じられ、俳優のエゴイスティックさや、ストイックさが若干漂う人がいるようでした。

一つを歌にして、シーンを作っていく。そういう普通に市民生活を送ること、ドラマが繋がりがやすいかなと思ったのと、華やかではないと言ってもやはり音楽劇。歌って踊るので、プロフェッショナルなミュージカルとはちょっと違うが、やはり華やかさはある。その両面で、普段お芝居を演っていない方が、楽しんで舞台を作り、見る人も楽しんでもらえると思っています。

やはり、俳優さん達は無茶を聞いてくれます。無理してくれるし、覚悟の仕方が普通の方よりは強い。そこに甘えて作らせてもらうということも多い。市民劇では、普通に生きている方だから、そういう意味でやはり違う。でも、普段演っていないからこそ、ホントに大事なことにシンプルに感じていけると思うので、新鮮度を楽しみに作っていきと思っています。

— はしっ子の国のはしっこの街のはしっこで生きている人々の話となるそうですが…。

糸井——取材させてもらって、印象としては、東京があって、京都・大阪の間だし、歴史を振り返っても、何となく中央に必死についていて、結構いい線までいくけどうまくいかないとか。中央にはなりきれないムードというのが、おそらくあるのだろうと。

さらに、豊橋の「橋」と、中央ではないという「端」とをかけ、舞台になる家族も、いわゆる中央的ではない普通の家族で。さらに、はしっこの末っ子が主人公で「橋・端」にかけ、その末っ子が見た家族それぞれの様と、そこから街の感じも浮かび上がるという作品にしたいと思

— 「FUKAIPRODUCE羽衣」の名の由来をまず聞かせてください。

糸井——深井さんが主宰なので「FUKAIPRODUCE」で、羽衣はいつの間にか付いていたのです。

深井——最初は劇団ではなく、糸井くんを呼ぶ形で私がプロデュース公演を「FUKAIPRODUCE羽衣」でしている内にメンバーが固定化し、じゃあ劇団にしようかとなりました。羽衣は、私が吉本ばなさんの「ハゴロモ」という作品が好きで「劇団名これです」と。すると、糸井くんは「まあそれでいいんじゃないの」と。

— 芝居と音楽を融合した「妙-ジカル」とはどんな雰囲気のものですか。

糸井——始めた頃は、音楽が好きで取り入れたのですが、やはり一般的に想像するミュージカルというほど華やかではないし、歌も踊りも上手でもないから、「ミュージカル」はおこがましい。そこで、少し妙な、だけどミュージカルと、説明する時にも説明しやすいので「妙-ジカル」と言い出しました。今思えば、一般的なミュージカルでは表現しきれない濁ったものや、ちょっと卑猥なこと、暗めのことも、「妙」であることで、すくい上げていけるのではないかと考えています。

— 市民劇「とよはしの街の物語」あるいは、ささやかだけど最高の市民劇とは

糸井——自分の作風や、市民劇のお話を頂いた意図とか狙いを考えると、人が普通に生きていると、決して華やかではないが、それぞれにドラマがある。その一つ

豊橋の街の物語を創りあげる2年プロジェクト。
劇団「FUKAIPRODUCE羽衣」の作・演出・音楽を手掛ける
糸井幸之介のちよつと妙なミュージカル



2017年3月4日【土】・5日【日】14:30開演
会員先行＝2017年1月7日(土)・一般発売＝1月21日(土)
作・演出・音楽＝糸井幸之介
ドラマツルク＝木ノ下裕一
出演・演出補＝深井順子
出演＝オーディションで選ばれた一般市民
会場＝PLATアートスペース

市民と創造する演劇 とよはしの街の物語

「はしっ子」

は、そういう古典を踏襲しているものが、海外で評価されるかという、それは全く関係ないことだと思っています。ですから、『てんとてん』でも、作る段階では、日本の伝統的のようなことは一切考えていませんでした。

ただ、『cocoon』は日本の話でしたが、『てんとてん』も、僕の地元の風景をモチーフにして作っています。日本をモチーフに書いた作品は、一見、海外のお客さんには全く関係のない話かもしれないと、最初は思っていたのですが、海外で活動を続けていくと、そういうことも細部まで、やはり伝わるのだと実感しました。例えば、僕が作品の中で描く、上京する風景などを、日本に限定した物かと思っていたのですが、イタリア人にもとても伝わるのです。田舎を出てフィレンツェに来たという子たちがそういう感想を持ってくれました。このツアーは豊橋、新潟、そして韓国へも行くのですが、地方の公演で、どういふふうに響くかをすごく楽しみにしています。東京で発表すると、やはり上京した人達が見るわけですから、地方でやるのと全く、逆のイメージや印象を持つと思います。そういう意味でも、この作品を地方でツアーをしていくことはすごく楽しみだなと思っています。

— シーンを繰り返し、違う立場・角度から見せる手法について、お聞かせ下さい。

藤田—『てんとてん』でも多用しています。シーンを断片化し、編集作業によって、作品を繋げていく中で、リフレインなどの繰り返しを使うようになりました。

演劇でしかやれないことを、演劇はやるべきだと思います。例えば、すごくリアルで精巧な舞台美術を作り、ワンシチュエーションでリアルタイムの演劇を見ていると、これは別に演劇でやらなくてもいいのではないかと思ってしまう。お客さんにとって、演劇はつまるところ定点観測なので、2時間同じセットを見続けることは面白くないと思うのです。繰り返しながら、各々の配置を変えるだけで、見え方は大きく違ってきます。

それは、舞台美術だけの話ではなく、物事の見方も、

— まず、「マームとジプシー」という名の由来についてお聞きしたいのですが。

藤田—「マームとジプシー」は劇団ではなく、僕一人のユニットなのです。僕という母体がスタッフやキャストを集め、最終的には観客も集めて、発表に向かっていく。つまり僕という母体がマームで、放浪していくかのように作品を作っていくのが「マームとジプシー」です。

— 今回の長い題名についてお伺いできたらと思うのですが。

藤田—『てんとてん』は「マームとジプシー」の初めての海外ツアー作品です。どこまで僕の言葉というか、世界観が海外の人に通用するのかを強く考えて作ったものです。もちろん、日本語は通じず、字幕を見せるのですが、だからといって、俳優が発する台詞が伝わらなくていいということではない。日本語の独特なリズムとか、音楽的な要素も利用したい、タイトルは、その一つの表明だと思うので、そういう意味でつけたタイトルだったと思います。

— 『cocoon』の舞台を見ると非常に映像的なものを感じるのですが…。

藤田—『てんとてん』は、海外用に作った作品なので、去年の新宿LUMINE0での公演以外では日本では正式には発表していません。今回のツアーで日本でできることを、すごく楽しみにしています。3、4年の間、このタイトルを通して考えてきたことは、『cocoon』という僕にとって大きな仕事に繋がっていったと思います。この作品は、モチーフも描き方も、関わっているメンバーも、マームとジプシーのコアな部分が詰まっているので、ぜひ見ていただきたいなと思っています。

— 『cocoon』では日本の古典の良さを現代に活かしていると感じたのですが…。

藤田—日本の古典は全く意識していません。自然と僕もそういうものを見てきましたから、そういう意味では影響を受けているかもしれませんが、現代演劇として

演劇でしかやれないことをしたい。
今、突出して異才を放つ若き劇作家。
藤田貴大の世界

2017年3月18日 [土]14:30開演/19:00開演
3月19日 [日]14:30開演

作・演出=藤田貴大
衣裳=suzuki takayuki
出演=荻原綾、尾野島慎太郎、成田亜佑美、波佐谷聡、召田実子、吉田聡子
会場=PLAT アートスペース

マームとジプシー

てんとてんを、むすぶせん。
からなる、立体。そのなかに、
つまっている、いくつもの。
ことなつた、世界。および、
ひかりについて。

やはり一片だけで見ていると何も見えてこない気がします。僕のスタンスとして、事実や物事に対し、角度をつけて、詳しく見ていくということが重要だと感じています。

— これはまだ旅の途中の作品となっていました、
藤田さんにとっての旅とは。

藤田—この作品は、初めて長い時間をかけて考え続ける事が出来ている作品だと思っています。その中で、作品というのは時間をかけて豊かになっていくものだとわかった作品でもあります。20代の頃は新作をたくさん作り、自分が描きたいことを獲得していくという時間でしたが、その時代の後半に、初めて海外ツアーに出ることになりました。条件が国内よりもシビアな状況で、一つの作品だけに向き合い一ヶ月ツアーする中で作品は育っていくことを、関わる人たち全員で実感しました。

ただ『旅(旅行)』をするだけならば簡単なことだけど、演劇は、四六時中みんなと一緒に旅(生活)していくと、色々な人の色々な所が見えてきて、それは、すごい厳しい環境ではありますが、その中で一つの作品をずーっと見つめ続けて、こうして育っていくのだと実感できました。そういう経験をしてきたので、今回のツアーの中でもどれくらい一つの作品が成長していくのかなと、僕だけでなく全員が多分楽しみに思っています。それこそこの作品は、まだ旅の途中だと思っています。

— 今回、豊橋で特に何か新しい試みとか、
思っていることはあるのでしょうか。

藤田—豊橋では、今まで2回作品を上演させて頂きました。今回が3回目、来年もおそらく行くことになりま

す。この先も付き合いが長くなると思っていますから、今回のこの活動が、豊橋との関係性の中で、特別に新しい活動だと思っていますし、今までの延長線上での活動な気がしています。新しい試みという意味では、レパートリーとして上演を続けているので、同じ作品ではありませんが、チームとして、一つ一つの会場や本番に目的を持って臨んでいます。それが長い時間で、『てんとてん』の作品を続ける中で、とても意味がつかってくる話だと思うのです。

一つの劇場で何年かに渡り、コンスタントに上演させて頂くことは、通常、難しいことなのですが、ワークショップや上演など色々な形を通しての豊橋の人達との出会いはいつも、すごく楽しみにしています。

— 豊橋のお客さんの印象や、
公演に掛ける抱負などをお聞かせ下さい。

藤田—『cocoon』は大きな劇場用に舞台も大きめに作った作品だったのですが、豊橋公演はどの劇場よりも小さく、すごく客席数が少ない舞台で、僕にとって忘れられない体験となりました。観客の目というか、顔がすごく近く見え、きちんと見てくれる人達だと思いました。演劇に関わるというのは、必ずしも出演者やスタッフだけだと思っています。チケットを買って、足を運んでくれるだけで、演劇に関わっていると事になると思うのです。ただ鑑賞者であるというよりも、豊橋の人達は関わってくれようとしているのだなとも思えました。僕らも大切にしている作品なので、また、豊橋で出来ることはすごく嬉しいことです。



撮影:篠山紀信

藤田貴大[ふじた・たかひろ] / 85年生まれ北海道出身。劇作家・演出家・マームとジブシー主宰。2007年桜美林大学在学中にマームとジブシーを旗揚げ。以降全作品の作・演出を担当。11年「かえりの合図、まつた食卓、とこ、きつと、しおふる世界。」で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。13年沖繩戦に動員された少女たちを描いた「cocoon」(原作:今日マチ子)を上演。15年に同作をリ・クリエーション、再演を行う。14年2月横浜文化・芸術奨励賞を受賞。演劇以外の活動として、今日マチ子との共作漫画「minamo-no-gram」(秋田書店)や「cocoon on stage」(青土社)などを出版。また、短編小説「N団地、落下。のち、リフレクション。」(新潮社)の発表など。

FOYER

プラットが学校へ - 「楽しむ」を伝える -

すずきこーた

プラットの職員と学校の先生が内容を調整し、アーティストを直接学校に派遣し、実施している「学校へ出向いてのワークショップ」。3年目を迎えた現在の実施状況を、今企画で演劇のファシリテーター(進行役)を務めるすずきこーたさんに報告してもらいました。

「アウトリーチ」という言葉をご存知でしょうか。アウトリーチとは、美術・音楽・医療・福祉などの知識を持った人たちが、その専門性を広めていくことより良い社会生活を送る手助けやきっかけをつくれることを目的に、学校や地域に出て行く活動です。動詞ではreach out(手が届く/届ける)というように使います。プラットで現在行っているアウトリーチは、演劇・ダンス・音楽など様々ですが、技術を伝えるだけでなく、楽しむこと・好きになってもらうことを目標に活動しています。

演劇のワークショップ(以下WS)は誰かが指示してつくっていくのではなく、多くの場合5〜7人程度のグループに分かれ、進行役が投げ掛ける題材についてグループで相談し、身体を動かしながら考え、楽しみながら目標に向かって進む活動しています。

豊小学校の2年生では、全身をつかうゲームに始まり、5〜6人のグループになり、身体で花の一生を表現しました。相談して息を合わせて何かを表現することは、大人でも難しいことですが、どのグループも協力し合い花を咲かせることができ、「いつも一緒に遊ばないクラスメイトと活動できた」という感想もありました。

松山小学校の3年生や花田小学校4年生の場合では、絵本から演劇をつくりました。まず進行役が絵本を読み聞かせて、いくつかの場面に物語を分けます。クラスが6人前後のグループに分かれ、違う場面の演劇を短い時間でつくります。セリフや動きなどは、自分たちで考え、大道具を作っている時間など無いので、身体で物や場所を表現し最後に順番に発表していき、クラスで絵本を1つの演劇にします。

「クラスで1つの演劇にする」のが大きなポイントです。1つの物語の中の違う場面を表現することによって、「あそこの方が面白い」といった優劣が感じにくくなり、互いに客観視できるので、より良くするために児童同士がアドバイスをし合えたり、最終的に1つの話になるという一体感も生まれやすくなります。「最初は無理だと思ったけど、クラスみんなで1つの劇がつくれて良かった」という感想を多く聞きます。

牛川小学校4年生は、学芸会の演目をやりましたが、台本の練習ではなく、もとの物語を場面に分けて、グループで考え、短い時間で1つの演劇をつくりました。物語の世界の理解を深めるだけでなく、「自分のセリフ

14頁〜続く



プラット・クリスマス・ジャズコンサート2016



左より 平手裕紀、寺島諒、杉山寛

大阪フィルハーモニー交響楽団 ニューイヤーコンサート



大友直人

©Rowland Kirishima

牛田智大

©Ayako Yamamoto



ビービング・トム

プラットワンコインコンサート



Musica Piatto

左より 天野初葉・杉浦孝治・小林美咲・兵藤雅晃



新津くらら



ワークショップファシリテーター養成講座2016後期

「まちに聞く、考える」発表会

12/21 [水] 18:30開演 「プラット・クリスマス・ジャズコンサート2016」

●出演＝平手裕紀(ピアノ・トランペット)、寺島諒(ベース)、杉山寛(ドラムス)●会場＝PLATアートスペース●受付終了。当日空きがあれば入場可(入場料1,000円)。

2017/1/14 [土] 16:00開演 **ライブポートとよはし 好評販売中** 「大阪フィルハーモニー交響楽団 ニューイヤーコンサート」

曲目:W.A. モーツァルト:歌劇「フィガロの結婚」序曲、ベートーヴェン:ピアノ協奏曲第5番「皇帝」、交響曲第5番「運命」。●指揮＝大友直人●ピアノ＝牛田智大●会場＝ライブポートとよはしコンサートホール●料金＝[全席指定]S席4,500円(ユース2,200円)／A席3,000円(ユース1,500円)

2017/1/28 [土] 15:00開演 **好評販売中** 「歌い、継ぐ」～永六輔さん追悼コンサート～

●出演＝デューク・エイセス、大友良英スペシャルバンド、INSPi、育之介●スペシャルゲスト＝二階堂和美●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般5,000円/ユース(24歳以下)2,500円

2017/2/18 [土] 13:00開演 二兎社公演41「ザ・空気」 **残りわずか**

●作・演出＝永井愛●出演＝田中哲司、若村麻由美、江口のりこ、大窪人衛、木場勝己●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席5,500円／A席4,500円／B席3,000円ほか

【関連企画】 永井愛ブートーク **申込受付中**

2/17 [金] 18:30～20:00
●講師＝永井愛●場所＝PLAT研修室(大)●参加費＝無料●対象＝チケットの有無問わず興味のある方●定員＝50名(申込順)●申込＝プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)

2017/3/4 [土]・3/5 [日] 14:30開演 市民と創造する演劇 とよはしの街の物語 「はしっ子」

今回の市民と創造する演劇は豊橋の街の物語を創りあげる2年プロジェクト。1年目は東京を中心に活動する劇団「FUKAIPRODUCE羽衣」の作・演出・音楽を手掛ける糸井幸之介を招き、ちよつと妙なミュージカル、“妙(ミョ)ーヅカル”を上演します。●会員先行＝2017年1月7日(土)●一般発売＝2017年1月21日(土)●作・演出・音楽＝糸井幸之介●ドラマツルク＝木ノ下裕一●出演・演出補＝深井順子●出演＝オーディションで選ばれた一般市民●会場＝PLATアートスペース●料金＝[全席指定]一般2,000円/ユース(24歳以下)1,000円/こども(高校生以下)500円

2017/3/12 [日] 15:00開演 ビービング・トム「ファーザー」

ローレンス・オリギエ賞最優秀ダンス作品賞を受賞した、ベルギーを代表するダンスカンパニー、ビービング・トムによる新感覚のダンスパフォーマンス作品が愛知県に初登場。老人ホームを舞台に繰り広げる圧巻のパフォーマンスをお見逃しなく。●会員先行＝12月17日(土)●一般発売＝2017年1月8日(日)●構成・演出＝フランク・シャルティエ●出演＝ビービング・トム、公募によるシニアキャスト●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,000円/24歳以下2,000円/高校生以下1,000円

【シニアキャスト募集】
●対象＝事前リハーサル(3月11日)と公演本番に参加できる60～70代の健康な方※演劇・ダンスの経験不問●定員＝男性3人、女性7人●選考＝①書類審査②面談(①の合格者のみ)詳細はお問合せください●申込＝1月31日までに申込書と全身写真1枚を穂の国とよはし芸術劇場まで。

【関連企画①】 ダンスレクチャー ビービング・トムとダンスについて語る

2/23 [木] 19:00～20:30
●内容＝ビービング・トムの過去公演映像を上演して解説します。●講師＝石井達朗(舞踊評論家)●参加費＝無料●定員＝200人(申込順)●申込＝12月17日10:00～プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)

【関連企画②】 ビービング・トム パフォーマンスワークショップ

3/8 [水]・9 [木]
●内容＝「ファーザー」出演ダンサーによるワークショップ●申込＝12月17日10:00～①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより<シニア向け 10:30～12:00>●参加料＝各日1,000円●対象＝60歳以上。経験不問●定員＝15人(申込順)●応募締切＝2月21日<パフォーマー向け 18:30～21:00>●内容＝「ファーザー」出演ダンサーによるワークショップ●参加料＝2日間通し1,500円●対象＝俳優・ダンス活動をしている人●定員＝15人(選考制)●応募締切＝2月21日



「歌い、継ぐ」
～永六輔さん追悼コンサート～

2017/3/18 [土] 14:30開演/19:00開演 3/19 [日] 14:30開演

マームとジブシー「てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなつた、世界。および、ひかりについて。」

●会員先行＝2017年1月14日(土)●一般発売＝2017年1月28日(土)●作・演出＝藤田貴大●衣裳＝suzuki takayuki●出演＝荻原綾、尾野島慎太郎、成田亜佑美、波佐谷聡、沼田実子、吉田聡子●会場＝PLATアートスペース●料金＝[全席指定]一般3,000円/U24(24歳以下)1,500円/高校生以下1,000円

【関連企画】 藤田貴大 演劇ワークショップ

日時＝3月15日[水]19:00～21:30
●参加料＝1,000円●対象＝高校生以上※演劇経験不問●定員＝20人程度(申込順)●申込＝1月14日10:00～①申込書に必要事項を記入の上、窓口持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより

2017/4/8 [土] 13:00開演 白蟻の巣

元宝塚歌劇団星組の安蘭けい、圧倒的な存在感を放つ平田満ら実力派俳優陣が贈る、三島由紀夫の長編戯曲をお楽しみください。●会員先行・セット券発売＝2017年1月28日(土)●一般発売＝2017年2月11日(土)●作＝三島由紀夫●演出＝谷賢一●出演＝安蘭けい、平田満ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席6,000円/A席4,500円/B席3,000円※「マリアの首」とのお得な2公演セット券(S席)10,500円

2017/4/22 [土] 13:30開演 春風亭小朝独演会

幅広い世代から人気を誇る落語家・春風亭小朝の独演会が今年もやってきます。●会員先行＝2月4日(土)●一般発売＝2月18日(土)●出演＝春風亭小朝●料金＝[全席指定]一般＝3,500円/24歳以下＝2,500円

2017/6/10 [土] 13:00開演 マリアの首～幻に長崎を想う曲～

終戦後の長崎で、三人の女性の生きざまを軸に、神との対話と平和への祈りを描き、第6回岸田演劇賞を受賞した戯曲を、話題の女優陣でお届けします。●会員先行・セット券発売＝2017年1月28日(土)●一般発売＝2017年2月11日(土)●作＝田中千禾夫●演出＝小川絵梨子●出演＝鈴木杏、伊勢佳世、峯村リエほか●料金＝[全席指定]S席6,000円/A席4,500円/B席3,000円※「白蟻の巣」とのお得な2公演セット券(S席)10,500円

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
●料金＝U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
●購入方法＝各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
●その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

がない時には何をすべきか」という、演劇でとても大切なことも、児童自身で考えるきっかけになりました。

吉田方小学校3年生では、昔の道具についての学習を演劇で発表しました。本などで調べて大きな模造紙に「壁新聞」という形でまとめていましたが、実際からだを使って道具を表現することで、実は分かっていたことが分かったり、今の時代との違いを実感できたりしました。他のグループの発表を見て、自分が調べなかったことの理解も深まりました。

プラットは「クラスづくり」「学芸会・学習発表会」「調べ学習」という大きな3つの枠でWSを実施しています。演劇的な活動に表現すること以上のことを、児童や先生方は発見しているように思います。

またプラットでは「ワークショップファシリテーター養成講座」も実施しており、豊橋や周辺の地域の人たちで小・中学校でWSを行える人材の育成にも力を入れています。地元のファシリテーターが増えれば、より多くの学校でWSを行うことができます。ファシリテーター養成講座は、ファシリテーターを育成するだけでなく、豊橋の子どもたちの育成にも繋がる活動だと信じています。



ESSAY



芸術文化アドバイザー

平田 満の ちよこつとエッセイ

第20回「AI-ロボット」

最近、AI-人工知能の話題が出ないことがありません。チェスや囲碁、将棋ではプロ棋士を圧倒しつつありますし、車の自動運転化も目の前に迫っています。感情を持つという人型ロボットが売り出されたりもしています。この先ロボットやAIはどこまで進化するのでしょうか？

手塚治虫の「鉄腕アトム」は少年漫画らしく心やさしい正義の味方で、感情もあり、涙まで流すのですが、自然や芸術に感動することはできません。アトムは天馬博士に息子の身代わりとして作られました。でもサーカスに売られてしまいます。成長しなかったからです。肉体が成長し、心が成長し、やがて衰えて死んでいく生き物ではなかったからです。

たぶんもっとAI-ロボットの感情表現は細やかになり、人間をつくりになるでしょう。状況や人間関係も理解し、人を喜ばせたり、笑わせたりもするかもしれません。でも、彼自身はよろこびを感じているのでしょうか？哀しみを感ずるのでしょうか？

私の好きな川柳に、「おっぱいの良さを知らない爬虫類」というのがありますが(やや下ネタ風ですみません)、無力な赤ん坊がおっぱいで育てられ、愛着が生まれ、悲しみや喜びを知り、自分を愛し、家族、異性を愛し、別れ、孤独、憎しみも覚えていく。そして、どうしようもなくその人になってゆく。AI-ロボットが、美しい夕日や懐かしい思い出に涙するのでしょうか？見つめるだけで胸が詰まる瞬間を持つのでしょうか？

私は芝居を観ていても、この人はこんなふうに人を愛し、こんなことに傷ついて生きてきたんだなあ実感できる人が出てくるだけで、いい舞台だなあと思ってしまいます。演技よりもその人を見てしまいます。人間の魅力はAI-ロボットにはない危うさ、はかなさかもしれません。

なんてこと言っていますが、絶対セリフを間違えず完璧な演技をするAI-ロボットが同業者になったら、へボ役者はちよつと困るというのが本音だったりして…。

SUPPORT



知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp



有限会社 魚伊
電話52-5256



株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 千440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 千435-0007 Tel.053-422-3628(代)



http://www.440a.co.jp

グロリアンピアノ地域特約店

白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015



竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋 竹内産婦人科) 電話053-464-3015

内科・消化器科・循環器科・眼科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科

医療法人羔羊会 弥生病院
日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子(東高2回生)
千441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 電話(大代)48-2211

看板広告 アラキスタヂオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

株式会社 谷山建築設計事務所
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科

伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 **数きく宗**
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶屋菓子専門店
若松園
御菓子司 創業江戸

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心 安全な地下駐車場
パ-ク500 ソウの親子の看板が目印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
塩之谷整形外科
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香
豊橋市植田町聞取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 **命あくわ**

井上皮フ科クリニック

診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。

共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂

本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

探物專家 **たけなでん**
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得

株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

JEANS SHOP YAMATO

豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にファインクオリティ

sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

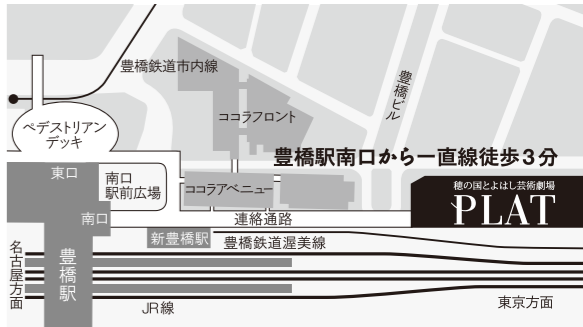
特典
1 公演情報をメールでご案内します。
2 インターネットでチケット予約ができます。
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。
料金
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円
購入方法
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
その他
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

年末年始休館のお知らせ

穂の国とよはし芸術劇場は、下記の期間休館いたします。
平成28年12月29日(木)～平成29年1月2日(月)
なお、上記の期間中プラットチケットセンターは電話および窓口とも休業いたします。
チケットのご予約は、インターネットをご利用ください。
24時間対応いたしております。
休館中のチケットのお引き取りについてはご予約の際にご確認ください。



千440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]
開館=9:00～22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT